

■ 東北地方太平洋沖地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます号
——【SFファン交流会】メールファンジン 84 号です —— ■

.....
3月12日に東北・東日本を襲ったM9.0という未曾有の大地震は、
甚大な被害をもたらしました。
被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに、
犠牲になられた方々のご遺族の皆様に対し、
深くお悔やみを申し上げます。
また、被害に遭い、今もなお救出を待つ方々、
非難生活でつらい状況におられる被災地の方々の無事をお祈り申し上げます。
一日も早く元の平穏な生活に戻られることを願っております。

SFファン交流会 スタッフ一同

.....

| メール形式のファンジン SFファン交流会
| □■SORAMAME Volume.84 (2011/03/15日発行) ■□
| http://www.din.or.jp/~smaki/smaki/SF_F/

このメール形式のファンジン(略して「メルFジン」)は、
月1回の発行を目標とし「SFファン交流会」参加者や
関係者の方々にお送りしております。

不要な方は、お手数ながら以下のメアドまでその旨ご連絡ください。
◆新アドレス: fankou.sf@gmail.com

◇◆◇>> 目次 <<◇◆◇

ト■災害情報サービスサイト情報
|
ト■2011年3月例会のご案内
|
ト■2010年2月例会レポート
|
ト■ご案内:『超短編の世界 vol.3』発売中!
|
ト■「文学」からちょっとだけ離れて —— 鈴木力
|
ト■いちご いちえすえふ —— 平林孝之
|
ト■オレンジ色の図書室から —— 根本伸子
|
ト■会報雑記 —— みいめの「SFを読みながら」

1) ■■ 災害情報サービスサイト情報 ■■

●災害情報サイト●

◆ google 災害情報総合ページ
<http://www.google.co.jp/intl/ja/crisisresponse/japanquake2011.html>

◆ SAVE JAPAN! エリア別救済支援情報サイト
<http://savejapan.simone-inc.com/>

◆ ウェザーニューズ 東日本大震災特設サイト
http://weathernews.jp/tohoku_quake2011/

◆ ユーザーローカル 停電エリア検索システム
<http://machi.userlocal.jp/teiden/>

●通信各社の伝言ページ●

◆ NTT 東日本災害用伝言ダイヤル「171」
<http://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/index.html>

◆ NTT 東日本災害用ブロードバンド伝言板「web171」
<https://www.web171.jp/top.php>

◆ KDDI の災害用伝言板サービス
<http://dengon.ezweb.ne.jp/>

◆ NTTドコモのiモード災害用伝言板サービス
<http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>

◆ ソフトバンクモバイルの災害伝言板
<http://dengon.softbank.ne.jp/>

◆ ウィルコム of 災害用伝言板
<http://dengon.willcom-inc.com/dengon/Top.do>

◆ イー・モバイルの災害用伝言板
<http://dengon.emnet.ne.jp/>

●安否確認●

◆ google 消息情報
<http://japan.person-finder.appspot.com/?lang=ja>

◆ 赤十字 安否情報確認サイト
http://www.familylinks.icrc.org/wfl/wfl_jap.nsf/docindex/locate_jap?opendocument

◆ MemoLi 現在位置表示機能
<http://memoli.jp/pc/jinfo/>

●救援支援サイト●

◆ 義援金等受付サイト情報
<http://matome.naver.jp/odai/2129989217646489401>

◆ 緊急災害電話の無料通話情報
<http://www.bricks-corp.com/>

====*====*====*====*====*====*====*====*====*====*

2) 2011年3月例会のご案内

====*====*====*====*====*====*====*====*====*====*====

■日時:2011年03月19日(土)午後2時~5時

■会場:千駄ヶ谷区民会館(JR原宿駅 徒歩10分)

http://www.city.shibuya.tokyo.jp/est/kmkaikan/km_sendagaya.html

●テーマ:SFファンのための世界文学アンソロジー

●ゲスト:牧眞司さん(書評家)

●参加費:500円(お茶・お菓子代込み)

●内容:

ジャンル別傑作選、ゼロ年代傑作選と、二〇一〇年はアンソロジーが豊作な一年でした。でも、まだまだあんなジャンルやこんなテーマのアンソロジーが読んでみたいという人は多いのではないのでしょうか。ファン交三月例会では、ゲストに牧眞司さんをお招きして、架空の世界文学アンソロジーを組んでいただきます。世界文学の魅力がぎゅっと詰まった短編集が生まれる過程をお楽しみください。

ファン交は当日受付、どなたでも参加できる気楽な集まりです。SFファン活動に興味のある方はお気軽にいらしてください。

※いつものところで二次会も準備してます。

現在も余震が断続的に続いていることや計画停電などを考慮し、「午後9時まで」の開催とさせていただきます。

◆公式サイト:http://www.din.or.jp/~smaki/smaki/SF_F/

◆twitter:SFfankou [<http://twitter.com/SFfankou>]

◆mixiコミュ:[http://mixi.jp/view_community.pl?id=405383]

====*====*====*====*====*====*====*====*====*====*====

3)2月例会レポート

by 根本伸子

====*====*====*====*====*====*====*====*====*====*====

■日時:2011年02月19日(土)午後2時~5時

■会場:笹塚区民会館(京王線「笹塚駅」より徒歩8分)

http://www.city.shibuya.tokyo.jp/est/kmkaikan/km_sasazuka.html

●テーマ:二〇一〇年SF回顧(「海外」「コミック」「メディア」編)

●ゲスト:添野知生さん(SF映画評論家)、yama-gatさん(SF/マンガファン)、酒井貞道さん(書評家)ほか

2月の例会は、1月に引き続き2010年SF回顧ということで、2010年の海外SF、コミック、メディアについて振り返りをしました。

ゲストに、SF映画評論家添野知生さん、SF/マンガファンyama-gatさん、書評家酒井貞道さん、飛び入りゲストとしてSFレビュアーの林哲矢さんをお迎えして、それぞれお奨めの作品を紹介していただきました。1月例会と同様にたくさんの作品が挙がり賑やかな例会となりました。

前半は、海外SFについて酒井さんと林さんにご紹介していただきました。

[海外SF長編]

酒井さんの長編お奨め1位は、『ファーシング』三部作(ジョー・ウォルトン/創元推理文庫)この作品は、イギリスとナチス・ドイツが講和した世界を舞台とした、歴史改変小説で1巻が本格ミステリー、2巻サスペンス、3巻改変歴史として三部作セットで読み応えのある作品とのことでした。

次に二人がベストにあげている作品でSFが読みたい1位の『異星人の郷(上・下)』(マイケル・フリン/創元SF文庫)が話題に上がりました。中世ドイツ人と異星人とのファーストコンタクトを描いた作品で、読者から見ると科学知識を持った異星人より、科学をすべて神学的に解釈する中世ドイツ人の方が異星人っぽく見えてしまうといった、両者のコミュニケーション

ンギャップが面白い作品だそうです。他にもシミュレーション歴史学や三位一体をモチーフにした宇宙航法など設定でも見どころが沢山あるとのことでした。

『WORLD WAR Z』(マックス・ブルックス／文藝春秋)は、ベストの中では一番 SF 色の強い作品。中国奥地で発生した未知の感染症によりゾンビが大量発生した世界を描いた話。日本人をオタクに描くなど、世界各国の登場人物をステレオタイプなキャラに描くことで国別の対ゾンビ戦略が面白くなっているそうです。

『時の地図(上・下)』(フェリクス・J・パルマ／ハヤカワ文庫 NV)は、時間旅行もモチーフに 19 世紀末から 20 世紀初頭のイギリス小説要素を全力で詰め込んだ非常にもてなしのいいエンターテインメントなのに作者はスペイン人というギャップも面白いとのことでした。

シリーズ作品では、『老人と宇宙』シリーズから『ゾーイの物語』(ジョン・スコルジー／ハヤカワ文庫 SF)、『500 年のトンネル』の続編『500 年の恋人』(スーザン・プライス／創元推理文庫)、『ミスト・ボーン』3 部作などに注目が集まったようです。

そのほかに話題にあがった作品は……、

・ロシアのハリポテ宇宙開発を幻想文学っぽく描いた『宇宙飛行士オモン・ラー』(ヴィクトル・ペレーヴィン／群像社ライブラリー)

・どんだん話が脱線していくところが面白い少女の冒険小説『アンランダン』(チャイナ・ミエヴィル / 河出書房新社)

・人類がほぼ滅亡した近未来小説、人類の生き残りスノーマンの話『オリクスとクレイク』(マーガレット・アトウッド早川書房)

・人類が入植した新世界の動植物の 1000 年間営みを描いた『グリーン・ワールド』(ドゥーガル・ディクソン／ダイヤモンド社)

・北上次郎氏絶賛の冒険 SF『ハンターズラン』(ジョージ・R.R.マーティン ガードナー・ドゾア ダニエル・エイブラハム／早川書房)

……などなど。たくさんの作品が話題に上がりました。

[海外 SF 短編]

短編では、SF マガジン創刊 50 周年記念アンソロジーは、コンセプトの絞りこまれたアンソロジーで、特に、中村融氏編の『ワイオミング生まれの宇宙飛行士』は、いうなれば失われた宇宙開発アンソロジーといった作品で、ソ連、アメリカ、イギリスのありえたかもしれない宇宙開発をもとに書かれた話で同じテーマを扱った作品なのにそれぞれどれもとても面白いとのこと。外見がグレイそっくりの少年成長を描いた表題作がストレートに面白いそうです。

大森望氏編の『ここがウィネトカなら、きみはジュディ』は、テッド・チャン「商人と錬金術師の門」相対論をベースにした決定論をアラビアンナイトですといった話で、アラビアンナイトのパスティーシュとしても、SF としても優れている良作でお奨め、また、ワトソン&クアリアの「彼らの生涯の最愛の時」もマクドナルドを使ったタイムとラベルによって最愛の人に会う感動の物語で非常にお奨めとのことでした。

山岸真氏編の『スティーヴ・フィーヴァー』は、近代技術と人間がテーマのアンソロジー。デイヴィッド・マルセク「ウェディング・アルバム」は、シンプルな自意識を持った写真が主人公なども丹精に作りこまれた作品。グレッグ・イーガン「スティーヴ・フィーヴァー」は、スティーブ熱に取り付かれた少年の物語もイーガンにしては地味な印象は受けるけど面白いお話とのことでした。

ほかには、『機械探偵クリク・ロボット』(早川書房)、故浅倉久志氏翻訳の SF 短編傑作選集『きょうも上天気』(角川文庫)、『恋愛小説集 II』(講談社)が注目作として名前があがりました。

書き下ろし短編では、「SF マガジン 1 月号」から、テッド・チャンの『息吹』、パオロ・バチガルビ『第六ポンプ』、グレッグ・イーガン『クリスタルの夜』、「SF マガジン 3 月号」からは、ジェイムズ・アラン・ガードナー『光線銃』がお奨め作品だそうです。

SF マガジンの特集では、5 月号のクトゥルー特集が最近の海外のクトゥルー神話界隈がどうなっているのかがわかってよかったとのこと。また、6 月号のスチームパンク特集が、スチームパンクの現状がビジュアル主導の文化になりつつあり、「それってスチームパンクじゃねえ。」というモノになっている感じが面白いと盛り上がりました。その他紹介されたミステリ・マガジンの 8 月号の特集のビザール口特集も変なお話ばかりで面白そうでした。

[メディア]

後半のメディア部門では、添野知生さんと yama-gat さんに SF・ファンタジー映画について紹介していただきました。

『コララインとボタンの魔女』『月に囚われた男』『第 9 地区』『ぼくのエリ 200 歳の少女』『インセプション』がベスト5としてあがりました。

5) 〈「文学」からちょっとだけ離れて〉
第3回・開高健「流亡記」

by 鈴木力

この原稿を書いている時点では筆者は未見なのだが、2月26日からNHK総合で始まるドラマ『TAROの塔』をご存じの方はどのくらいいるだろうか。岡本太郎が大阪万博で太陽の塔を作る話だ。このドラマがSFファンとして見逃せないのは、脇役として万博サブプロデューサーの小松左京が登場する点である。演じるのはカンニング竹山。眉村卓がモデルのSF作家を草なぎ剛が演じた例はあるけれども、実在するSF作家がドラマに登場するのは少なくとも日本では希有な例ではないだろうか。そして、おそらくドラマには登場しないだろうものの、実は万博には小松と旧知の作家がもうひとり関わっていたのである。それが開高健だ。

開高健は1930年大阪生まれ。大阪府立大卒業後に寿屋(現・サントリー)に宣伝担当として入社、トリスウィスキーなど歴史に残る広告を制作する。58年「裸の王様」で芥川賞を受賞。『輝ける闇』『耳の物語』など小説のほか、『ベトナム戦記』『オーパ!』などノンフィクションの著作も多数ある。89年没。

「流亡記」は59年に発表された初期の短篇である。文庫本で60頁ほどの長さだが、文体とエピソードの緻密さから、ちょっとした長篇ほどの読みごたえがあり、また思いもかけないSF性もある。カフカにインスパイアされて書かれたものだという。

舞台は古代の中国。「私」は名もない(実際、名前は一度も明記されない)雑貨商である。「私」が住むのは辺境の町で、周囲は黄土で覆われた荒野である。町を囲う城壁も建物も、みな黄土から作った日乾し煉瓦で出来ている。その建設や補修は「私」たち町に住む者共同の仕事だった。

そのころの中国は文字通りの群雄割拠で、数え切れないほどの政治勢力の軍隊が入り替わり立ち替わり町を占領した。軍隊を構成するのはならず者の傭兵で、彼らは食欲と性欲を満たすためなら何でもやったから町はそのたびに略奪された。

「私」が成人して間もなく、秦が中国を統一した。始皇帝の政治手法は、これまでのどの王とも違っていった。彼は自身の徳によって天の下をしろしめすのではなく、徹底したシステムによる統治を目指したのである。度量衡や文字は統一され、国土の隅々まで中央から官吏が派遣されて地方の顔役やボスを排除した。

ある日、町に官吏と兵士がやってきた。彼らは縄で町を半分に区画し、縄の右側にいる成人男子を徴発すると宣言した。「私」の目には異様な光景が映る。兵士たちは右側にいる男を根こそぎ引き立て手ひどい暴力さえ加えたけれども、左側の男に対してはまったくの無関心なのだ。かつての傭兵たちは人間として最低だったかもしれないが、自分の欲望に忠実な分だけは少なくとも人間であった。しかし町に来た兵士の振る舞いは人間というより機械に近かった。《彼らはまったく新しい職業人だ。はじめて私が出会い、その後数知れず出会った、皇帝の新体制が生み出した、まったく新しい職業人、顔や体からその道具をうかがい知ることのまったくできない職業人であった》。

「私」たちが徴発されたのは万里の長城を建設する労働力としてであった。それは秦の国力をもってしても途方もない大事業であった。計画の遂行のためすべての部署に厳しいノルマが課された。兵士は一定以上の労働力を徴発するよう求められ、官吏は一定以上の書類(当時は木簡だが)を作成するよう決められた。ノルマが果たされなければ死刑が待っていて、都の周囲には死体の山が出来る。量がすべてを支配するという意味で、「私」のような最下層の人間からエリート官僚までがひとしく均質化される。

「私」は都で労働力として登録されると、何万人という同じ境遇の男たちと共に、長城建設のため故郷とはまた別の辺境へと連行される。長城の材料は「私」の町で城壁に使われていたのと同じ日乾し煉瓦だ。しかし極限まで細分化された流れ作業の末端に置かれた「私」は、故郷と違って自分の労働の成果を実感できない。

長城は匈奴に対する防衛線たりえているのかと「私」は自問する。答えは否だ。匈奴は煉瓦の隙間から水が漏れるように、防備の脆弱な箇所を見つけてはヒットアンドアウェイを果てしなく反復しているではないか。

《これらのことから推しても私たちの結論はたったひとつしかでてこないのだ。万里の長城は完全な徒勞である。それはあきらかに私の故郷の町の城壁とおなじように防禦物としての機能を完全に欠いている。風にむかって塀をたてて風が消えたと

7) オレンジ色の図書室から 第20回

『翼のある猫上下』

(イザベル・ホーフィン著 / 野坂 悦子 訳 うえだ はるみ 訳
/ 河出書房新社 / 2010年12月)

by 根本伸子



先日、駱駝のミルクで作った駱駝型のチョコレートを食べました。きっと、心に残る味に違いない!との期待でドキドキしながら食べたのですが、普通にとても繊細で美味しいチョコでした。その上品さゆえに、勝手ながら、なんだかがっかりしてしまいました。

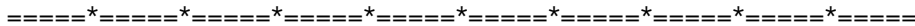
本作は、無性に駱駝チョコが食べたくなったきっかけとなった一冊です。

ひよんなきっかけから、突然、謎の商社の社員として、夢世界“ウマイヤ”で商品を売ることになった少年ヤッシェ。トラブルに巻き込まれ、ウマイヤの世界に閉じ込められてしまいます。そして、二人の間とともに時間旅行の秘密を探るために、時間の旅を司る謎のテンペー族を探す羽目に陥ります。

眠って時を遡りながら、時間の狭間にいるというテンペー族を探そううちに、死に別れたはずの双子の妹イェリコとであったり、主人公ヤッシェ、親友ボルス、先輩セールス員のテレサそれぞれが自分達の隠された才能に気がついたり、商社ヒップハルト創設に隠された遠い昔の罪などが明らかになってきます。

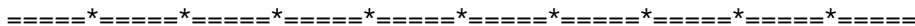
人間の集会的無意識の作り出した夢の世界「ウマイヤ」での冒険には、善悪の区別やその世界のルールがなかなか見えてこないところが特徴的で面白かったです。世界のつくりが、非常にゆっくりとに明らかになってくるので、薄ぼんやりした色彩から徐々に浮き上がってくる様子が最初は少しまどろっこしい感じがしましたが、話のスローテンポになれてくると、しっとりとした読み応えのある物語だなあとしみじみ楽しめました。

いろいろ考えるとちょっと説教くさいお話になってしまいそうなところのある本ですが、鳥を愛し、平和を愛し、物欲から開放された世界に生きるテンペー族のように、あんまり考えすぎずに、のんびり物語を楽しむのがいいのかなあと思いました。



8) 会報雑記……でもある——SFを読みながら◎84回

by みいめ



週末の例会は通常通り例会の開催を予定しています。

いつものところで二次会も準備していますが、交通機関の混雑を鑑み「午後9時まで」とさせていただきます。

現在も続く余震や、計画停電、福島第一原子力発電所事故等の影響で、やむをえず休催することになる場合もあります。休催となります場合は、18日(前日)中に「公式サイト」「twitter / @SFfankou」「mixi コミュ」等にて、ご連絡させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

- ◆公式サイト: http://www.din.or.jp/~smaki/smaki/SF_F/
- ◆twitter: SFfankou [<http://twitter.com/SFfankou>]
- ◆mixi コミュ: [http://mixi.jp/view_community.pl?id=405383]

◆みいめにつき ↓

<http://sf.lovelove.jp/meamet.php>

■当会は、鈴木力とみいめ(牧紀子)が2001年11月より始めた「SFファン交流を考える会」が、2005年09月に代表が鈴木力から fuchi-koma(石井龍 / 2008年よりサポートスタッフ)に交代し、鈴木力が会のオブザーバーとなったのを

きっかけに、会の名称を「SF ファン交流会」に改名。ファン活動&交流の実践編ということで毎月例会を続けております。2006年12月に平林孝之(2009年4月より遠距離スタッフ)、2008年3月より冬峰(大山龍太/現在の代表)、そして2009年4月に根本伸子がスタッフに加わりました。スタッフ一同、より楽しい例会になるよう精進いたしますので、これからもお付き合いのほどよろしくお願いいたします。



□ ■ このファン交メールフォンジンに関する

■ お問い合わせは以下まで

【配信元・お問合せ】SF ファン交流会

[e-mail] fankou.sf@gmail.com

Copyrights(c) SF Fan Interchange Association All Rights Reserved.